

サステナビリティ推進体制

グループサステナビリティ推進体制

JFEグループは、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念に基づき、今後も長期にわたって、豊かな地球の未来のための商品やサービスを提供する存在であり続けることを目指しています。

また、社会の持続的発展と人々の安全で快適な生活のために「なくてはならない」存在としての地位を確立し、社会の皆様にも広く認めて頂ける企業となることが、使命であると考えています。これを具現化するために、「環境的・社会的持続性」を確かなものとして、「経済的持続性(安定した収益力)」を確立します。それにより経営基盤の強靭さ(レジリエンス)を確保し、グループの中長期的な持続的成長と企業価値の向上を実現します。

サステナビリティへの取り組みの監督

JFEグループの企業価値の毀損防止と向上の観点から、リスクマネジメントを含むグループ全体のサステナビリティへの取り組みを監督・指導する体制として、JFEホールディングス社長を議長とし、副社長、執行役員、常勤監査役、各事業会社社長等で構成される「グループCSR会議」(2023年4月より「**グループサステナビリティ会議**」に名称変更、以下「グループサステナビリティ会議」)を設置しています。「グループサステナビリティ会議」のもとに「グループコンプライアンス委員会」、「グループ環境委員会」、「グループ内部統制委員会」、「グループ情報セキュリティ委員会」、「開示検討委員会」、および「企業価値向上委員会」を設置し、グループとしての方針審議や方針の浸透状況の監督、課題や発生した問題および対処事例等についての情報共有を行い、JFEグループのサステナビリティへの取り組みを監督・指導しています。また、「グループサステナビリティ会議」における審議事項のうち、グループの基本方針、活動計画、重要施策の内容および重要事態発生時の対応等について、**取締役会に定期的に報告し審議**することにより、指示監督を受けています。

グループサステナビリティ会議の活動状況

「グループサステナビリティ会議」は、約3カ月に1回程度開催し、独占禁止法、公務員等に対する贈収賄を含む汚職防止に関する法令等の遵守、および人事労働、安全・防災、環境、気候変動、品質、財務報告、反社会的勢力への対応、情報セキュリティ等のESGリスクも含むリスクマネジメントや社会貢献等の多岐にわたる範囲を対象として、グループの取り組みに関する方針審議(重要案件に対する指示・指導を含む)、方針の浸透状況の監督、および課題、発生した問題への対処事例等についての情報共有、水平展開を行っています。

各事業会社との連携

各事業会社においても各々の会議体を設置しており、JFEグループの企業価値の毀損防止と向上の観点からグループ全体の取り組みを推進するため、グループサステナビリティ会議と連携して運営しています。JFEスチールでは、2005年4月にCSR室を設置したことに続き、2005年7月に「CSR会議(2023年4月より「サステナビリティ会議」に名称変更、以下「サステナビリティ会議」)」(議長：社長)を設置しました。「サステナビリティ会議」の中に、コンプライアンス、地球環境、リスクマネジメント、安全・防災、顧客満足、社会貢献などの委員会・部会を設け、対象分野ごとの積極的な活動を展開するとともに、グループ会社を含めたサステナビリティ意識の浸透を図る活動を進めています。JFEエンジニアリングおよびJFE商事においても、コンプライアンスや環境に関する委員会等を設け、サステナビリティの実現に向け取り組んでいます。

■ サステナビリティ推進体制図



従業員を対象とした意識調査による確認と改善

JFEグループでは、グループの企業理念・行動規範・企業行動指針の浸透・徹底を確認すること、潜在的なリスクの洗い出し等を目的として、当社および事業会社の役員・従業員を対象に「企業倫理等に関する意識調査」を定期的（3年に1回、2024年度より2年に1回に変更予定）に実施しています。2022年度に実施した調査では、多くの従業員が理念や会社の方針を認識し、コンプライアンス意識を持って業務を行っていることを確認できた一方で、今後の課題も把握しました。把握した課題についてはグループサステナビリティ会議および取締役会の監督のもと、各社での具体的な取り組みを行い改善に努めています。

JFEグループの取り組みとSDGsの関連性

「経営上の重要課題（マテリアリティ）の各分野以外にもJFEグループでは、さまざまな取り組みを行っています。本報告書で掲載している活動を以下に示しました。これらの多様な活動を通じてSDGsの達成への貢献を目指しています。

活動の例	関連する主なSDGs
サステナビリティマネジメント	
<p>▶ サプライチェーンマネジメント (P.44)</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーン調達推進 事業別の調達方針と取り組み 	  
ESG課題への取り組み	
<p>▶ 環境マネジメント (P.47)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの推進 環境教育 	 
<p>▶ 気候変動 (P.53)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼事業のCO₂排出量削減 社会全体のCO₂削減への貢献拡大 TCFD推奨シナリオ分析 	   
<p>▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業別の主な環境配慮型商品・技術 	    
<p>▶ 資源有効活用 (P.131)</p> <ul style="list-style-type: none"> 副産物の発生・排出抑制と有効利用 リサイクルの推進 JFEグループの資源循環ソリューション 	  
<p>▶ 水セキュリティ (P.136)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水リスクへの対応 水資源の効率的利用 	 
<p>▶ 汚染防止 (P.139)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気への排出抑制 水資源の汚染防止 化学物質の管理・排出抑制 	   
<p>▶ 生物多様性 (P.144)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の取り組み 外部イニシアチブへの賛同・参画 商品・技術（生物多様性の保全） 	 
<p>▶ 環境コミュニケーション (P.152)</p> <ul style="list-style-type: none"> 操業地域における環境情報開示 環境に関する情報発信と交流 	  

活動の例		関連する主なSDGs
<p>▶ 顧客責任（良質な商品の提供とお客様満足度の向上） (P.156)</p>	<ul style="list-style-type: none"> JFEグループの品質への取り組み CS（お客様満足）向上 商品安定供給 	
<p>▶ 人的資本：労働安全衛生 (P.165)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生への取り組み 健康への取り組み 	
<p>▶ 人的資本：多様な人材確保と育成 (P.174)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革 業務改革 ダイバーシティ推進への取り組み 人材育成 活力のある職場づくり 	
<p>▶ 人権 (P.183)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重への取り組み 人権デューデリジェンスの実施 	
<p>▶ コミュニティ (P.192)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動 外部団体への支援 青少年育成支援 「JFE21世紀財団」による社会貢献活動 	
<p>▶ 株主・投資家向け情報 (P.201)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報開示 	
<p>▶ コンプライアンス (P.216)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業倫理の徹底と法令遵守 	
<p>▶ 税の透明性 (P.224)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 税の透明性 	

ステークホルダー・エンゲージメント

JFEグループは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、株主の皆様のみならず、お客様、お取引先様、従業員、地域社会をはじめとするさまざまなステークホルダーの利益を考慮し、良好かつ円滑な関係の維持に努めています。

■ 主なステークホルダーとの対話事例

ステークホルダー	主なコミュニケーション手段等	その他	
		頻度 (/年間)	規模等
株主・投資家			
正確、公正かつ適時・適切な情報開示と積極的なコミュニケーションに努めています。 国内外の株主・投資家の皆様との対話の責任部署としてIR部を設置し、建設的な対話を促進するとともに、得られた情報を経営にフィードバックするなど信頼関係の維持・向上に努めます。	定時株主総会	1回	約22万名 (単元株主数)
	IR面談 (主に機関投資家のファンドマネージャー・アナリストが対象)		国内51社(162回) 海外65社(130回)
	SR面談 (主に機関投資家のESG担当・議決権行使担当が対象)		国内23社(48回) 海外17社(17回)
	インベスターズ・ミーティング ESG説明会(アナリスト・ESG担当等が対象)	5回	延べ約1,100名
	オンライン会社説明会(個人投資家が対象)		当日参加100名 視聴10,000回以上
	実地/オンライン工場見学会(個人株主が対象)	11回	約1,500名
	株主通信(JFEだより)	2回 (中間・年度)	約28万部/回
	統合報告書、サステナビリティ報告書等の各種報告書 ^{※1}	1回	約2.3万部
ホームページによる情報発信(株主・投資家情報)等	随時		
お客様			
お客様のニーズにお応えするためには、研究開発を進めるとともに、商品やサービスの安定供給、品質の確保を確実にすることが必須であると考えています。 お客様のニーズ、信頼に応え続けることによりWin-Winの関係構築に努めます。	営業活動を通じたコミュニケーションや品質保証のサポート	随時	事業会社ごとに実施
	満足度調査等のアンケートやヒアリング	随時	事業会社ごとに実施
	ホームページによる情報発信(製品情報)等	随時	
取引先			
重要なビジネスパートナーとして、お取引先様と協力してCSRに関する取り組みを積極的に進めています。 購買(調達)基本方針を制定し、公正で誠実な調達活動の推進およびお取引先様との健全な関係を構築しています。	購買活動を通じたコミュニケーション	随時	事業会社ごとに実施
	説明会・意見交換会	随時	事業会社ごとに実施
	ホームページによる情報発信等	随時	

※1 部数は統合報告書、サステナビリティ報告書はWeb公開のみ

ステークホルダー	主なコミュニケーション手段等	その他	
		頻度 (/年間)	規模等
従業員			
「社員一人ひとりの能力を最大限に引き出すためには、仕事に誇りとやりがいを感じられる働き方の実現が不可欠である」との経営トップの認識のもと、人材マネジメント基本方針および健康宣言を制定し、その実現に向けてさまざまな取り組みを推進します。	日常業務、職場を通じたコミュニケーション	随時	
	社内報およびイントラネット	随時	
	各種労使協議会	2~4回	各事業会社経営幹部と労働組合
	企業倫理ホットライン	随時	2022年度127件
	各種研修	随時	階層別、コンプライアンス、人権等
	ファミリーデー(社員の家族による職場訪問や社員食堂でのランチなど)	随時	事業会社ごとに実施
	企業倫理等に関する意識調査	1回/3年 (2024年度より1回/2年に変更予定)	当社および事業会社
	エンゲージメントサーベイ(社員満足度調査) ^{※2}	1回/年	当社および事業会社
マネジメントフィードバック(360度診断) ^{※3}	1回/年	当社およびJFEスチール	
地域社会			
地域の皆様との信頼関係の構築、共存共栄が生産活動を行う製鉄所等の製造拠点では事業継続のためには必要不可欠です。 安全確保や環境負荷低減に向けて継続的に取り組むことはもちろんのこと、持続的な成長と地域の発展の両立を目指してさまざまな活動に取り組めます。	地域の自治会やイベント等を通じたコミュニケーション	随時	
	製造拠点でのイベント ^{※4} (まつり・フェスタ等)	地区ごとに1回程度	年間5.6万名程度
	工場見学会 ^{※4}	随時	年間7万名以上
	清掃活動 (製造拠点周辺・地域等の清掃)	随時	
	スポーツ振興 (野球教室、ランニング教室、各種スポーツ大会)	随時	
	その他(出前授業、ものづくり教室、職場体験等)	随時	
	ホームページによる情報発信(環境情報等)	随時	
	▶ JFE21世紀財団 (http://www.jfe-21st-cf.or.jp/)による社会貢献(各種研究助成、地域活動支援など)	随時	

※2 会社に対する満足度を調査し、施策・運営に活かしていくことを目的とした全社員アンケート

※3 執行役員・職位長のマネジメントを同僚や部下が評価し、本人へフィードバック

※4 新型コロナウイルス感染症拡大防止を講じた上で実施、2022年度実績を記載

JFEグループのバリューチェーン

JFEグループは、上流から下流まで世界中にバリューチェーンが広がるグループの事業において、当社グループが解決に向けて貢献すべき社会課題に対し、事業運営において対処すべきリスクと機会を捉え、これらの課題への取り組みを進めていきます。私たちは今後もバリューチェーンの隅々にわたって対応を充実させていくことで、グループ全体の持続可能性を確保していきます。

鉄鋼事業／商社事業

バリューチェーン全体像



調達

鉄鋼製品の生産に必要な原料である鉄鉱石や石炭を製鉄所に安定供給するため、オーストラリア、南米など世界各地から購入し、専用の船で輸送しています。また製鉄プラント等の設備や資材についてもグローバルな調達を進めています。JFEスチールは、持続可能な社会の実現に向けた活動をサプライチェーン全体で推進していくことを目的に、「JFEグループ企業行動指針」および「JFEグループ人権基本方針」に沿って、「JFEスチール調達ガイドライン」を制定しました。これをお取引先様と共有し、サステナビリティに関する取り組みをサプライチェーン全体で推進していきます。

生産・製造・出荷

自動車、インフラ、家電など人々の暮らしに欠かせないさまざまな領域で使用される鉄鋼製品を、世界トップクラスの鉄鋼生産規模をベースに最先端の技術力をもって、高品質かつ効率的に生産し、安定的に供給しています。

また、生産・加工工程で発生した鉄スクラップの再資源化とともに、製鉄工程において発生する副産物の鉄鋼スラグはセメント材料や土木材料などへ活用することで、資源循環を推進していきます。

販売・使用

自動車の軽量化に寄与する高張力鋼板や、電動化に貢献する電磁鋼版など、環境配慮型商品の開発を進めるとともに、グループ全体で洋上風力発電の事業化にも取り組んでいます。研究開発や製造技術向上を通じて各産業のさまざまなニーズに応え、最先端のモノづくりを支えています。

鉄スクラップ回収

製品寿命をむかえた鉄鋼製品をスクラップとして回収し、製鉄プロセスに戻し原料として使用しています。

環境

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			
気候変動					
<p>JFEグループにとって、気候変動問題は事業継続の観点から極めて重要な課題であり、2050年カーボンニュートラルの実現を目指して取り組みを推進しています。経営上の重要課題に、気候変動への対応に関する項目を特定し、気候変動問題の解決に積極的に取り組んでいます。</p>					
機会 ・革新技術の開発と競争優位性の確保 ・再生可能エネルギーソリューションの需要拡大 ・電炉鋼生産、電炉エンジニアリングビジネスの拡大 ・高張力鋼板や電磁鋼板などの高機能鋼材供給によるCO ₂ 削減への貢献			●	●	●
リスク ・鉄鋼(高炉)プロセスへの脱炭素ニーズの高まり ・革新技術導入に伴う投資負担の増大 ・炭素税の導入 ・激甚化する自然災害によるサプライチェーン寸断 ・海面上昇による拠点の浸水リスク	●	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 気候変動 (P.53)					
関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ TCFD推奨シナリオ分析 (P.91) ▶ 鉄鋼業界の取り組み (P.104) ▶ 環境データ (P.225)					

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			
環境配慮型プロセス・商品の開発と提供					
「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」という企業理念のもと、環境に配慮した鉄鋼製造プロセスの開発および技術や製品を提供することを通じて環境負荷低減に貢献していきます。					
機会 ・環境に配慮したプロセス・商品の開発 と競争優位性の確保			●	●	
リスク ・環境規制の厳格化 ・製品使用時における環境負荷増大			●	●	●
主な取り組み ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108)					
資源有効活用					
資源枯渇や環境汚染などの問題が一層グローバルに顕在化することを考慮し、製鉄プロセスにおける副産物の再資源化、鉄スクラップのグローバル循環を通じて資源循環に貢献しています。					
機会 ・鋼材のリサイクル性への再注目 ・スクラップ利用機会の拡大 ・スクラップ物流ビジネスの拡大			●	●	●
リスク ・排出した廃棄物の処分場不足 ・資源の枯渇 ・老廃スクラップの価格高騰、入手困難 化、品位低下	●	●	●		●
主な取り組み ▶ 資源有効活用 (P.131)					
関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)					

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			
水セキュリティ					
鉄鋼製品の製造において、製品や設備の冷却・洗浄に大量の淡水を使用するため、水源やその周辺のステークホルダーへの影響を考慮した水資源の効率的な利用は重要な課題です。					
リスク ・環境負荷の増大 ・環境規制の厳格化 ・取水元の渇水リスク・排水先の汚染リスク	●	●	●		
主な取り組み ▶ 水セキュリティ (P.136) 関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)					
汚染防止					
地域社会の皆様はもとより、地球環境・社会と共存・共栄し、自社の事業継続をする上で、大気環境への汚染物質排出抑制、環境保全設備への積極的な投資などの取り組みは、重要な課題と位置付けています。					
リスク ・環境負荷の増大 ・環境規制の厳格化	●	●	●	●	
主な取り組み ▶ 汚染防止 (P.139) 関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)					

社会

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			
顧客責任					
自動車、インフラ、家電など人々の暮らしに欠かせないさまざまな領域で使用される鉄鋼製品を提供しています。お客様の要求する品質にお応えし、お客様に安定して製品を供給することは、重要な責任と捉えています。					
機会 ・サステナブル調達の拡大と安定調達体制の構築 ・安定した生産・品質による競争優位性の確保	●	●	●	●	●
リスク ・気候変動に伴う災害や地震等自然災害によるサプライチェーンの寸断 ・生産・品質問題と顧客信用低下 ・老廃スクラップの価格高騰、入手困難化、品位低下	●	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 顧客責任(良質な商品の提供とお客様満足度の向上) (P.156) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 社会データ (P.243)					
人的資本：労働安全衛生					
従業員の安全と健康の確保は製造業の基本要件であり、企業存続の基盤でもあります。JFEグループは、「安全はすべてに優先する」の基本姿勢のもと、グループ会社・協力会社と一体になって安全健康活動を進め、安全で健康的な職場づくりに取り組んでいます。					
リスク ・事故や労働災害の発生	●	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 労働安全衛生 (P.165) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 社会データ (P.243)					

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			
人的資本：多様な人材の確保と育成(労働慣行)					
JFEグループでは、法令遵守はもとより当社の持続的な成長のために、多様な人材の確保や事業活動を支える人材の育成、従業員が働きがいをもって能力を最大限に発揮できる職場環境や制度の整備、時間と場所にとらわれない新しい働き方の実現などを推進しています。					
機会 ・新しい働き方の実現による優秀な人材の確保			●		
リスク ・労働力の不足 ・労務リスク ・技術伝承の断絶	●	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 多様な人材の確保と育成(労働慣行) (P.174) 関連ページ ▶ 社会データ (P.243)					
人権					
JFEグループは、人権尊重が企業の社会的責任であるとともに経営基盤の一つであると考え、企業行動指針に企業活動において一切の差別を行わないことを明示し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った取り組みをグループ一丸となって推進しています。					
リスク ・潜在的な人権リスク	●	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 人権 (P.183) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 社会データ (P.243)					

ガバナンス

バリューチェーン上の課題	調達		生産・製造・ 出荷	販売・使用	鉄スクラップ 回収
	原材料 鉄鉱石/石炭	資機材			

コンプライアンス

幅広く国内外でビジネスを展開していくうえで、お客様をはじめ、株主・地域社会などすべてのステークホルダーとの信頼関係が重要であり、「コンプライアンスの徹底」は、その信頼関係の基盤であると考えています。腐敗行為の防止等に関する教育を実施することで、従業員全員がコンプライアンスの知識や認識を深め、日々実践していくことが重要です。

リスク

・独占禁止法違反、競争法違反など公正でない取引による法的問題



主な取り組み

▶ [コンプライアンス](#) (P.216)

関連ページ

▶ [サプライチェーンマネジメント](#) (P.44) ▶ [ガバナンスデータ](#) (P.249)

情報セキュリティ

JFEグループは情報セキュリティ管理の諸規程を制定し、サイバー攻撃やシステムの不正利用による情報漏えいやシステム障害を防止する対策を実施し、情報セキュリティ管理レベルを継続的に向上しています。

リスク

・サイバー攻撃やシステムの不正利用による情報漏えいやシステム障害



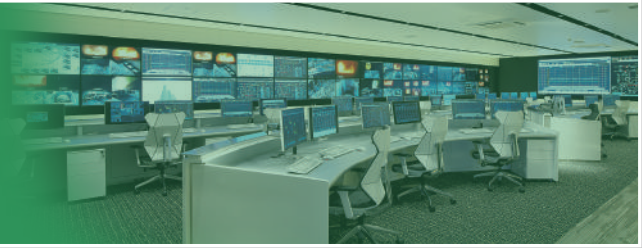
主な取り組み

▶ [リスクマネジメント](#) (P.220)

関連ページ

▶ [ガバナンスデータ](#) (P.249) ▶ [DX REPORT](https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html) (https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html)

エンジニアリング事業



バリューチェーン全体像

エンジニアリング(くらしの礎を創る) ~ 事業運営・操業支援(くらしの礎を担う) ~ 事業継続(くらしの礎をつなぐ)

企画・開発・設計 ▶



調達 ▶



製作・建設 ▶



メンテナンス・
運営 ▶



エンジニアリング(くらしの礎を創る)

エネルギー・環境や橋梁などさまざまな分野で、設計から引き渡しまで、お客様のニーズに即した高機能・高品質な施設を数多く建設してきました。「造船事業をベースとした加工・組み立て技術」と「鉄鋼事業をベースとした素材・燃焼技術」を融合・進化させた社会を支える技術を数多く有しており、次世代エネルギーの創出や環境問題の解決などに貢献しています。また、これらの技術に基づいた新たなビジネスモデル・新たな技術の開発に総力を挙げて取り組んでいます。国内最大級の鋼構造物製作工場をはじめとする生産拠点やアジア諸国を中心とした海外拠点を含むグローバルエンジニアリング体制も構築しており、高品質・低コストでの製品・サービス供給を可能としています。

事業運営・操業支援(くらしの礎を担う)

環境・上下水などのプラントを中心として、長きにわたりオペレーション・メンテナンスのノウハウを培い、公共サービス分野で数多くの官民連携事業を手がけています。また、自らがプラントを建設し、リサイクル事業や再生可能エネルギー発電事業を行い、循環型社会、持続可能な社会の構築に取り組んでおり、今後もさらに拡大していきます。

事業継続(くらしの礎をつなぐ)

エネルギーや環境プラント、橋梁、沿岸構造物などのインフラ施設の建設、運営、メンテナンスを継続し、安心、安全な社会を次世代につなげていきます。

環境

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
気候変動				
<p>JFEグループは、エンジニアリング事業において再生可能エネルギー利用技術や省エネルギー製品などの環境配慮型商品・技術を提供することを通じて社会全体のCO₂削減に貢献することを目指しています。経営上の重要課題に、気候変動への対応に関する項目を特定し、気候変動問題の解決に積極的に取り組んでいます。</p>				
機会 <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーソリューションの需要拡大 CCU^{*1}・CCS^{*2}設備の需要増加 エネルギー環境分野のニーズ高度化 気候変動に伴う災害への対応強化(防災・減災、災害廃棄物処理等) Waste to Resource(食品廃棄物発電)の需要拡大 	●	●	●	●
リスク <ul style="list-style-type: none"> 激甚化する自然災害によるサプライチェーン寸断 気象災害による影響 海面上昇による拠点の浸水リスク 環境規制の厳格化 	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 気候変動 (P.53) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ TCFD推奨シナリオ分析 (P.91) ▶ 環境データ (P.225)				
環境配慮型プロセス・商品の開発と提供				
<p>「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」という企業理念のもと、成長セクターである環境・リサイクル分野を中心とする事業活動を通じて、環境負荷低減に関する社会課題解決に貢献していきます。</p>				
機会 <ul style="list-style-type: none"> 運転効率の向上、環境負荷低減へのニーズ コストダウン、省エネニーズ 	●		●	●
主な取り組み ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108)				

※1 CCU : Carbon dioxide Capture and Utilization (CO₂回収・利用)

※2 CCS : Carbon Capture and Storage (CO₂の回収・貯留)

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
資源有効活用				
資源枯渇や環境汚染などの問題が一層グローバルに顕在化することを考慮し、廃棄物の焼却プラントや汚泥消化プラントを建設してお客様に提供することに加え、自ら廃棄物リサイクル事業やエネルギー供給事業を展開し、資源循環のソリューションを提供しています。				
機会 ・Waste to Resource (プラスチックリサイクル、食品廃棄物発電) の需要拡大	●	●	●	●
リスク ・排出した廃棄物の処分場不足 ・資源の枯渇		●	●	●
主な取り組み ▶ 資源有効活用 (P.131) 関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)				
水セキュリティ				
重要なライフラインである上下水道の整備・運営をトータルマネジメントすることで社会の水環境の負荷低減に貢献しています。				
機会 ・運転効率の向上、環境負荷低減へのニーズ				●
リスク ・取水元の濁水リスク・排水先の汚染リスク ・環境規制・法令違反		●	●	●
主な取り組み ▶ 水セキュリティ (P.136) 関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)				

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
汚染防止				
地域社会の皆様はもとより地球環境・社会との共存・共栄し、自社の事業継続のため、大気環境への汚染物質排出抑制、環境保全設備への積極的な投資などの取り組みは、重要な課題と位置付けています。				
機会 ・運転効率の向上、環境負荷低減へのニーズ				●
リスク ・環境負荷の増大 ・環境規制・法令違反 ・環境事故の発生 ・生活環境汚染	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 汚染防止 (P.139) 関連ページ ▶ 環境配慮型プロセス・商品の開発と提供 (P.108) ▶ 環境データ (P.225)				

社会

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
顧客責任				
国内最大級の鋼構造物製作工場をはじめとする生産拠点やアジア諸国を中心とした海外拠点を含むグローバルエンジニアリング体制を構築しています。全社品質方針を遵守し、高品質な製品・サービスの供給、アフターサービス体制の強化などを通じて、お客様満足度の最大化を目指しています。				
機会 ・サステナブル調達の拡大と安定調達体制の構築 ・要求性能の実装 ・コストダウン、省エネニーズ ・公共サービスの民営化による事業規模拡大	●	●	●	●
リスク ・生産・品質問題と顧客信用低下	●			●
主な取り組み ▶ 顧客責任(良質な商品の提供とお客様満足度の向上) (P.156)				
関連ページ ▶ 社会データ (P.243)				
人的資本：労働安全衛生				
従業員の安全と健康の確保は製造業の基本要件であり、企業存続の基盤でもあります。JFEグループは、「安全はすべてに優先する」の基本姿勢のもと、グループ会社・協力会社と一体になって安全健康活動を進め、安全で健康的な職場づくりに取り組んでいます。				
機会 ・からだとメンタルの健康による人的資本の最大化	●	●	●	●
リスク ・事故や労働災害の発生 ・新型コロナウイルス感染症によるサプライチェーンの寸断	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 労働安全衛生 (P.165)				
関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 社会データ (P.243)				

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
人的資本：多様な人材の確保と育成(労働慣行)				
JFEグループでは、法令遵守はもとより当社の持続的な成長のために、多様な人材の確保や事業活動を支える人材の育成、従業員が働きがいをもって能力を最大限に発揮できる職場環境や制度の整備、時間と場所にとらわれない新しい働き方の実現などを推進しています。				
機会 ・新規技術導入などによる省人化・省力化 ・人材不足による遠隔監視、自動運転へのニーズ			●	●
リスク ・労働力の不足 ・労務リスク ・技術伝承の断絶	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 多様な人材の確保と育成(労働慣行) (P.174) 関連ページ ▶ 社会データ (P.243)				
人権				
JFEグループは、人権尊重が企業の社会的責任であるとともに経営基盤の一つであると考え、企業行動指針に企業活動において一切の差別を行わないことを明示し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った取り組みをグループ一丸となって推進しています。				
リスク ・潜在的な人権リスク	●	●	●	●
主な取り組み ▶ 人権 (P.183) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ 社会データ (P.243)				

ガバナンス

バリューチェーン上の課題	企画・開発・ 設計	調達	製作・建設	メンテナンス・ 運営
コンプライアンス				
<p>幅広く国内外でビジネスを展開していくうえで、お客様をはじめ、株主・地域社会などすべてのステークホルダーとの信頼関係が重要であり、「コンプライアンスの徹底」は、その信頼関係の基盤であると考えています。腐敗行為の防止等に関する教育を実施することで、従業員全員がコンプライアンスの知識や認識を深め、日々実践していくことが重要です。</p>				
リスク ・独占禁止法違反、競争法違反など公正でない取引による法的問題		●		●
主な取り組み ▶ コンプライアンス (P.216) 関連ページ ▶ サプライチェーンマネジメント (P.44) ▶ ガバナンスデータ (P.249)				
情報セキュリティの確保				
<p>JFEグループは情報セキュリティ管理の諸規程を制定し、サイバー攻撃やシステムの不正利用による情報漏えいやシステム障害を防止する対策を実施し、情報セキュリティ管理レベルを継続的に向上しています。</p>				
リスク ・サイバー攻撃やシステムの不正利用による情報漏えいやシステム障害	●	●	●	●
主な取り組み ▶ リスクマネジメント (P.220) 関連ページ ▶ ガバナンスデータ (P.249) ▶ DX REPORT (https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html)				

サプライチェーンマネジメント

基本的な考え方

国際社会では「持続可能な開発目標 (SDGs)」の策定および「パリ協定」の採択など、持続可能な社会の実現に向けて、企業のグローバルな課題解決への参画と積極的な行動が求められています。JFEグループでは、地球環境との共存・人権尊重・働きがいのある職場環境の提供などを「JFEグループ企業行動指針」として掲げ、事業活動の中でさまざまな取り組みを推進しています。さらに、持続可能な社会の実現には、こうした課題に対し自社グループのみならずサプライチェーン全体で取り組むことが重要であると考えており、今後もお取引先様をはじめとするビジネスパートナーの皆様のご理解を得ながら、取り組みを推進していきます。

グリーン調達の推進

関係法令や経団連「企業行動憲章」に定められた購買取引方針なども考慮し、資源保護、環境保全などへの配慮を怠らないことを購買取引の方針に組み込んでいます。今後もサプライチェーンの一員として、さらに取り組みを加速させていきます。

事業別の調達方針と取り組み

JFEスチール

JFEスチール調達ガイドライン・お取引先様への推進要請

JFEスチールは、原料・資機材調達に関して、持続可能な社会の実現に向けた活動をサプライチェーン全体で推進していくことを目的に、「JFEグループ企業行動指針」および「JFEグループ人権基本方針」に沿って、「JFEスチール調達ガイドライン」を制定し、児童労働・強制労働の禁止をはじめとする人権尊重・法令順守および環境保全に配慮した購買を行っています。また、原料調達に関しては、お取引先様に紛争鉱物でないことを調査・確認した上で購入しています。

お取引先の皆様とも「JFEスチール調達ガイドライン」を共有し、サステナビリティに関する取り組みをサプライチェーン全体で推進していきます。

JFEスチール調達ガイドラインは以下をご参照ください。

▶ [JFEスチール調達ガイドライン](https://www.jfe-steel.co.jp/company/purchase_policy/index.html) (https://www.jfe-steel.co.jp/company/purchase_policy/index.html)

JFEエンジニアリング

調達基本方針・お取引先様へのCSR推進の要請

JFEエンジニアリングは、お取引先の皆様を、相互発展を目指す大切なパートナーと考えており、相互に信頼関係を醸成し、パートナーシップをより強固なものにするよう努めています。

JFEエンジニアリングは調達基本方針を定め、公正で誠実な調達活動に取り組むとともに、お取引先の皆様への具体的な要望事項を調達ガイドラインとして制定し、お取引先の皆様にも遵守をお願いしており、ともにCSR活動を展開してサステナブル調達を推進しています。

JFEエンジニアリングの「調達基本方針」「調達ガイドライン」は以下をご参照ください。

- ▶ [調達基本方針](https://www.jfe-eng.co.jp/information/basic_policy.html) (https://www.jfe-eng.co.jp/information/basic_policy.html)
- ▶ [調達ガイドライン](https://www.jfe-eng.co.jp/information/guidelines.html) (https://www.jfe-eng.co.jp/information/guidelines.html)

JFE商事

安全で公正な供給網を展開

JFE商事グループは、お客様およびJFEグループをはじめとしたステークホルダーの皆様とともに持続的に発展・成長する存在感のある企業を目指し、活動しています。その実現のため、サプライチェーンにおける持続性(サステナビリティ)の確保が重要な課題であると考え、人権・労働問題・地球環境等への取り組み方針となる「サプライチェーンにおけるサステナビリティ基本方針」を掲げています。JFE商事グループは、サプライヤーをはじめとするお取引先の皆様に対して、基本方針への理解と遵守への協力を求め、お取引先の皆様とともにより持続性の高いサプライチェーンの構築を目指していきます。

JFE商事の「サプライチェーンにおけるサステナビリティ基本方針」は以下をご参照ください。

- ▶ [サプライチェーンにおけるサステナビリティ基本方針](https://www.jfe-shoji.co.jp/sustainability/promote/) (https://www.jfe-shoji.co.jp/sustainability/promote/)